

4 地域の強みを生かした里山の振興

- ⑩多様な地域資源を活用した生業づくりの推進
- ⑪スロートゥーリズム等による人を呼び込む農村づくりの推進
- ⑫農村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりの推進

【方針】

農村地域では、過疎・高齢化の進行や農産物の価格低迷等により、農業者の経営は厳しさを増してきているほか、中山間地域等を中心に耕作放棄地の増加や、農村が持つ多面的機能の低下による里山の荒廃が懸念されています。

このため、世界農業遺産認定を契機に始まっている、地域資源を有効に活用した「生業づくり」の取組みを支援し、農村地域での多様な所得確保につなげます。

また、農家民宿・レストランを核とし、その地域の食材や食文化を中心とした豊かな地域資源を生かした「石川型スロートゥーリズム」に取り組み、人を呼び込む「農村づくり」を推進します。

農村地域の重要性について県民の理解を促進するとともに、地域の農業者や非農業者が共同して農村機能の維持・保全を図ることにより、担い手等による営農活動を支える取組みを進めます。

安全・安心な「地域づくり」に向け、農業水利施設等の長寿命化や耐震対策、計画的な更新整備を図るとともに、増加する鳥獣被害防止対策の強化や里山ブランドとしてのジビエの利活用を図ります。

成果指標

農家民宿・レストランの来訪者数
14,000人/年 → 20,000人/年

⑩多様な地域資源を活用した生業づくりの推進

【背景】

本県では、県土の約6割がいわゆる里山にあたり、こうした里山地域は、かつては適度に人の手が入ることにより守られてきましたが、生活様式の変化や過疎・高齢化などの影響により、荒廃が進んでいる状況にあります。

このため、平成23年度に「いしかわ里山創成ファンド」を創設し、里山里海の資源を活用した「元気な里山里海づくり」の取組みを支援してきましたが、平成28年度から、基金総額を53億円から120億円に拡充するとともに、ファンドの名称を「いしかわ里山振興ファンド」に改め、さらに強力に支援することとしています。

平成23年6月、「能登の里山里海」が日本で初めて、世界農業遺産に認定されました。先進国からの認定は初めてであり、自然と共生した農林水産業や里山景観、伝統的な文化・祭礼などの総合力が高く評価されたものです。この認定を契機に、能登棚田米のブランド化や環境に配慮した能登米づくり、国内外から多くの観光客が訪れる農家民宿群「春蘭の里」など、多様な地域資源を活用した「生業づくり」や「地域づくり」の取組みが広がりを見せています。

また、世界農業遺産の価値のさらなる向上に向けて、国内認定地域が共同し、農林水産物の販売や情報発信を行っており、平成27年10月にはイタリアで開催されたミラノ国際博覧会に出展するなど、国内外において世界農業遺産の魅力を発信してきました。

今後も、世界に認められた「能登の里山里海」をはじめとした本県が誇れる里山里海を次世代に継承していくためには、その魅力に磨きをかけ、それを活用した「生業づくり」を推進することで、所得の確保を図ることが必要です。

〈「能登の里山里海」の世界農業遺産認定〉

平成23年6月、「能登の里山里海」が世界農業遺産に日本初の認定

伝統的な農林漁法や土地利用、多様な生物資源、優れた里山景観、伝統的な技術、文化・祭礼、里山里海の保全活動などの総合力が国際的に評価されたもの



白米千枚田



揚げ浜式製塩法



輪島塗



あえのこ



キリコ祭り

波及

能登棚田米・能登米

- ・農薬や化学肥料を5割削減した「能登棚田米」のブランド化
- ・能登全域での環境に配慮した「能登米」づくり



地域が主体となった農業振興の取組みの拡大

春蘭の里

〈農家民宿:47軒〉

- ・自然以外に何も無いことをアピール
- ・ありのままの暮らしでおもてなし
- ・都会や海外からの移住者が現れるなど、国内外から高い評価



地域資源を活かした生業の創出による地域活性化

ミラノ国際博覧会

国内認定5地域が共同出展し、世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力や食文化の総合力を発信



施策の方向

(1) 里山里海の地域資源を活用した新商品・新サービスの開発を支援し、里山の生業づくりを進めます。

(2) 世界農業遺産認定のメリットを最大限に生かすとともに、その魅力を発信します。

具体的な取組み

- 里山振興ファンドにより、里山里海地域における生業づくりの支援を拡充します。
- 新たな商品価値の創造に向け、百貨店等の流通産業と連携した新商品開発やフェアの開催に取り組みます。〔再掲1-②〕
- 能登の食材を消費地に直送する「顔の見える能登の食材流通」の取組みを拡大します。〔再掲2-⑨〕
- 世界農業遺産認定を地域振興に活用する「石川モデル」の取組みをさらに進めるとともに、他の認定地域とも連携し、魅力発信を行います。
 - ①ロゴマークを活用した『世界農業遺産 未来につなげる「能登」の一品』商品の拡充
 - ②里山里海文化の継承に向けた高校生による「聞き書き」や地域づくりセミナーの実施
 - ③体験学習により「能登の里山里海」の魅力や取組みを発信するプログラムの創設
 - ④国内認定地域と連携した首都圏等での農林水産物の販売や情報発信の実施

〈生業づくりの取組み〉



地域食材を活用した料理を提供する食堂を開業



キノコを循環型農業で生産する農業法人等の能登への進出

〈里山ブランドの開発・発信の取組み〉



耕作放棄地の再生と能登ブランド農産品の開発



首都圏百貨店等での「能登」の一品の販売

重点課題の達成目標

里山振興ファンド事業の採択件数 18件/年 → 26件/年

⑰スロートーリズム等による人を呼び込む農村づくりの推進

【背景】

本県の里山里海には、量は少ないものの数多くの魅力的な食材が揃っており、本県の大きな強みとなっています。

イタリアでは、地域の食材や食文化を重視する「スローフード」の考え方を実践し、国内外から多くの観光客や移住者を呼び込み、地域の活性化に成果をあげています。また、本県でも、農村体験を提供する農家民宿群「春蘭の里」においては、毎年、交流人口が拡大しています。

これらの取組み事例を参考にしながら、農家民宿などの宿泊施設を核にして、本県が誇る「食」を中心に、地域で培われた伝統文化、伝統技術、美しい景観などの魅力を点から面につなげる、いわばネットワーク化することにより、多様なサービスを地域で一体的に提供する「石川型スロートーリズム」を推進します。

今後、本県の豊かな里山里海資源をこれまで以上に活用することにより、国内はもとより外国からの誘客も促進し、里山里海地域における農林漁業を中心とした多様な収入源の確保につなげることが必要です。

◆農家民宿の取組例



◆農家レストランの取組例



施策の方向

(1) 農家民宿などの宿泊施設を核に、「食」をはじめとする里山里海の魅力を地域で一体的に提供する「石川型スローツーリズム」を推進します。

具体的な取組み

○「石川型スローツーリズム」の推進により、農村地域に人を呼び込み、農業を中心とした多様な収入源の確保につなげます。

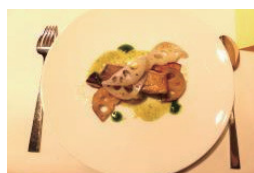
- ①食を中心とした財産の磨き上げと新たな魅力の発掘
- ②宿泊施設を核とした魅力のネットワーク化と多様な滞在メニューの開発支援
- ③農家民宿の開業支援と里山里海景観の形成
- ④地域固有の優れた特徴を有する希少食材の生産の継承や販路の拡大、産地形成の支援

○新規就農者の確保に向け、移住・定住対策と連携し、Uターン希望者や新規学卒者等の移住就農を促進します。〔再掲3-⑪〕

- ①首都圏の相談センターにおける就農相談会の実施や情報発信の強化
- ②農業法人等への就業促進に向けた農業法人の見学会や農業インターンシップ等の実施

〈石川型スローツーリズムのイメージ〉

農家民宿を核に「食」をはじめとする里山里海の魅力を地域で一体的に提供



地元食材を使用した
多様な料理



揚げ浜式製塩



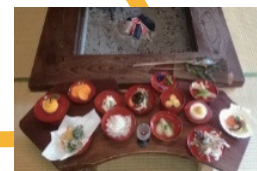
輪島塗



ボラ待ち漁



農家民宿



輪島塗の器と
郷土料理

重点課題の達成目標

農家民宿・レストランの来訪者数 14,000人/年 → 20,000人/年

⑱ 農村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりの推進

【背景】

農村地域は、食料の安定供給のみならず、洪水防止や地下水涵養等の多面的機能を有していますが、近年、過疎・高齢化等により集落の共同活動が困難となっており、これらの機能の維持が難しくなっているほか、頻発する気象災害等により、安全・安心な地域づくりへの関心が高まっています。

また、イノシシ等による農作物への被害が増加し、農業者の営農意欲の低下が懸念されています。

担い手が安定して農業経営を行い、地域に暮らす人々が安心して農村生活を送るためには、担い手以外の農地の地権者や住民の方々も含めた地域一体となった農村機能の維持・保全の取組みを進めることが必要であり、県では、国の直接支払制度等を活用するほか、都市住民の方々を農村ボランティアとして登録し、受け入れ希望集落での保全活動に参加していただいています。




さらに、安全・安心な地域づくりに向け、ため池や農業用水路等の適切な維持・保全や計画的な更新整備も進めているところです。

増加する獣害に対しては、防護柵・捕獲檻等による被害防止と併せて、ジビエ（野生鳥獣肉）として利活用する取組みが始まっています。

引き続き、農村の持つ多面的機能を維持・保全する取組みを推進するとともに、ジビエを地域資源として積極的に活用し、地域振興につなげていくことが必要です。

農村地域の維持・保全

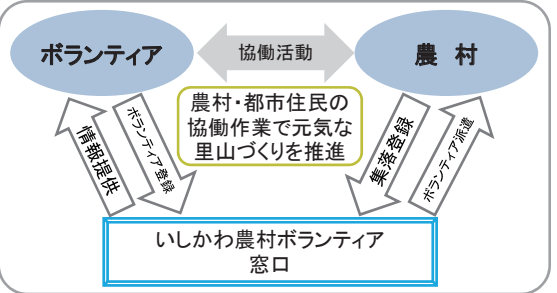
直接支払制度を活用した取組み

法面の草刈り
水路の泥上げ
植栽活動

農村ボランティアの仕組み



県では、ボランティアと農村を結びつける「いしかわ農村ボランティア窓口」を設置し、双方による協働活動を支援しています。





いしかわ農村ボランティア窓口

施設の適切な管理・計画的な更新整備

計画的な更新整備

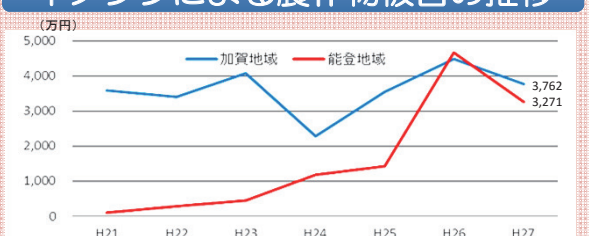



ため池の決壊
整備後のため池

水路からの溢水状況
更新整備された水路

イノシシによる農作物被害の推移



年度	加賀地域 (万円)	能登地域 (万円)
H21	~3,500	~500
H22	~3,500	~500
H23	~4,000	~1,000
H24	~2,500	~1,000
H25	~3,500	~1,500
H26	~4,500	~4,500
H27	3,762	3,271

施策の方向

(1) 多面的機能支払をはじめとした日本型直接支払制度等を活用し、農村の荒廃を防止します。

(2) ため池や農業用水路等をはじめとする地域資源の保全管理により、安全・安心な地域づくりを推進します。

(3) 鳥獣被害の防止や捕獲活動の取組みを支援するとともに、ジビエの利活用を促進します。

具体的な取組み

○農村の持つ多面的機能を維持するための取組みを支援します。

- ①日本型直接支払制度の取組み拡大
- ②民間による農村ボランティアの仕組みづくりと組織の運営支援
- ③耕作放棄地への有用な樹木の植林や放牧など、里山としての多様な利活用の検討

○安全・安心な地域づくりに向け、農業水利施設等の保全管理に努めます。

- ①ため池や農業用水路等の点検・診断に基づく補修・補強による長寿命化や耐震対策の推進
- ②老朽化等により機能低下した農業用水路の計画的な更新整備

○防護柵、捕獲檻の設置や捕獲活動への支援等により、イノシシをはじめとする被害防止対策の強化を図ります。〔再掲1-③〕

○里山ブランドとしてのジビエの利活用を促進します。

- ①消費者の需要を喚起するためのジビエ料理コンテスト・フェアの開催
- ②獣肉及び加工品の販路開拓及び調理技術の普及

〈農村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりの取組み〉

◆農村ボランティアによる保全活動



遊休地の草刈り



水田畦畔の草刈り



野菜苗の植え付け



野菜の収穫

◆農業水利施設等の点検・診断による長寿命化



農業用水路の点検・診断状況



既存農業用水路の補修状況
(コンクリート表面被覆)

◆ジビエ料理の開発



重点課題の達成目標

ため池整備数 410カ所 → 460カ所
 捕獲イノシシのジビエ利活用率 5% → 10%

トピックス4 地域の強みを生かした里山の振興

世界農業遺産「能登の里山里海」

平成23年6月に「能登の里山里海」は日本で初めて世界農業遺産に認定されました。



世界農業遺産は、国際連合食糧農業機関（FAO）によって、平成14年に開始されたプロジェクトです。

世界農業遺産の目的は、近代化の中で失われつつあるその土地の環境を生かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを「地域システム」として一体的に維持保全し、次世代へ継承していくことです。

認定地域は世界各国に広がり、平成27年12月末現在で15ヶ国36地域となっており、国内では8地域が認定されています。

能登は、地域に根差した里山里海が集約された地域であり、「能登の里山里海」の認定は、その総合力が高く評価されたことによるものです。

農林水産業とそれに関連した人々の営みのすべて、いわば能登の里山里海で育まれる暮らしそのものが「世界農業遺産」として認定されたのです。



春蘭の里（能登町） —集落を挙げて農家民宿に取り組み、交流人口が増加—

能登町の農家民宿群「春蘭の里」では、自然以外に何も無いということを手にとり、お客様をありのままの暮らしでもてなし、農作業を行ってもらうなど、都会ではできない体験を提供する取り組みを行っています。その結果、今では国内外から年間約1万人もの観光客や修学旅行生などを受け入れており、地域活性化のモデルとして注目されています。

